

大分市クリエイティブ産業育成事業 おおいたデザイン・エイド2024
『次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインプランコンテスト』 企画書

応募する課題	課題8 自分たちのまちを知り、誇りを持てるような植田の歴史書のデザイン
氏名	大分 栄子
現状分析・問題抽出 課題一覧の掲載情報や課題提供者へのヒアリング、生活者としての意識等からこの課題をどのように捉えたかをご記入ください	
現状について ○歴史 奈良時代には豊後国分寺が置かれ、多くの史跡を有している。 ○人口・構成 昭和40年代以降の新興住宅地造成により移住世帯が多く、人口約86,000人(平成30年)を越える。 植田、宗方、横瀬、東植田、寒田、敷戸、鷺乃、賀来の8つの行政校区と135もの自治会から成り、自治会活動も多様。 ○過去の出版物について 8つの校区の特色や活動などを紹介する「我がまちわさだ 我が校区」と、自治区の歴史や自治会の活動を紹介する「我がまち わさだ 自治区のあゆみ」の2つの歴史書を発行し、全自治会や小中学校に配布している。	
そもそもの問題はどこにあるのか 植田は大分市内でも3番目に人口が多い地域で、歴史やそれを物語る史跡も豊富に有しているが、課題提供者は「地域についてほとんど知らないまま暮らしている人が多い」という点を問題視している。 その要因の1つは、新興住宅地が造成された際に移住してきた世帯が、地域の活動や歴史に触れる機会が少ないことなのではないか。歴史書のタイトルにある通り、植田をいかに「我がまち」と感じてもらうかが重要なのではないか。	

ビジョン

そもそもの問題を解決するためには、どのような状態になることが望ましいと考えますか

地域の歴史や活動に触れるきっかけとして、この歴史書を手に取り、開きたくなるような表紙のデザインが望まれる。さらに、興味を持って読み進めてもらうためには、表紙と本文にギャップがないようデザインが統一されているとともに、編集・デザインに読者が理解を深めるための工夫があることが望ましい。

たとえば、書籍から得た知識をもとに、現地に行って自分の目で確かめる・体験するなどの行動を誘発することができれば、より理解が深まり、誰かに自慢したくなるのではないか。

特に小中学生をターゲットにすることで、学校や家庭でも話題にあがっていくことが望ましい。そのためには、一種のゲーム性や巡ってみたくなる仕掛けが必要なのではないか。

プランニング

問題を解決するためのアイデアや、その先のビジョンを実現するためのプランをご記入ください

植田をイメージしたキャラクターを考案する。

歴史書の表紙には、このキャラクターとともに、植田の象徴的な風景や行事・イベントなどの写真を複数枚掲載し、親しみやすいデザインにする。

キャラクター案：

ちよ丸くん (大分市唯一の装飾古墳 千代丸古墳をイメージ。大和時代の装束を着用した男の子。犬を飼っている。どんぐりとおにぎりが好き。)

活用例

本文：キャラクターが時折登場し、各ポイントをわかりやすく紹介する。

地図：キャラクターのテイストにトーンを合わせ、見て楽しいデザインにする。

ウォーキングとの連動：各校区に1箇所ずつ設置されているウォーキング案内看板や史跡めぐり健康づくりウォーキングマップにもキャラクターを採用。このキャラクターをモチーフにしたウォーキングルートを目印となる看板を作り、歴史書と連動させていければより良いと思う。

デザインコンセプト・提案のポイント

アイデアやプランを実践するためのデザインの役割や問題解決のためのポイントをご記入ください

「歴史書は難しい」というイメージを持つ人も多いため、写真やキャラクターを取り入れ、若い世代に興味を持ってもらえるよう努めたい。

また、キャラクターがアイコンとなり、歴史書と「ウォーキング案内看板」を連動させることで、実際に自分の足で歩き、体験することでより知識を深め、誰かに伝えたい情報を得られるような仕掛けを作りたい。

二次元バーコードを効果的に活用し、常に新しい情報にアクセスできるようにすることで、長期にわたり活用できる歴史書としたい。

確認事項

- この応募作品は、私が制作した未発表のオリジナル作品です。
*間違いない場合は□にチェックをしてください。

*本様式のほか、申請書(様式1)、提案書(A4サイズ、自由様式)を必ず提出してください。